

令和6年度 介護保険サービス事業者連絡会

ICT機器・介護ロボット 導入取組みと今後の課題



医療法人 聖光会 鷹の子病院・たかのか館
地域医療介護連携統括部 宗岡 直美

～本日の内容～

- 1、法人概要
- 2、各部門の現場における問題点、課題認識
- 3、ICT、介護ロボット導入の動機、意思決定
- 4、令和2年度～6年度 ICT・介護ロボットの導入経過
- 5、各部門の効果測定 Before－Afterのアンケート
- 6、各部門の現場の声 導入してよかったこと＆今後の課題
- 7、現在の取り組み
- 8、今後の展開



医療法人聖光会

～選ばれる法人になり「医療」から「介護」に繋げていこう～

鷹の子病院



*入院：一般病床 40床
包括ケア 32床

*外来：耳鼻科 眼科
内科 脳神経外科
リハビリテーション

*在宅療養支援

*居宅療養管理

*居宅介護支援事業所
鷹の子病院・たかのか館

*鷹の子病院通所リハビリ
テーション 定員30名

老人保健施設 たかのか館



*入所：一般棟 56床
認知症専門棟 24床
(合計80床)

*短期入所療養介護
(2床に加え空床利用)

*通所リハビリテーション
定員 30名

*訪問看護ステーション
たかのか館

たかのこカフェ



平成29年度より開催 → 令和5年度より再開

～内容～

- ・フレイル予防体操、五感を使った脳の活性化プログラム
- ・フラワーアレンジメント ～就労支援事業所とのコラボ企画～
- ・もしばなゲーム など

介護なんでも相談会



令和5年度 相談内容

- 1位: 介護保険の利用方法
- 2位: 体調の不安
- 3位: 在宅介護の困りごと
- 4位: 配食サービス

令和5年度より開催

場 所: 鷹の子病院 1階
相談会: 週1回
担当者:

- ・主任介護支援専門員
- ・介護支援専門員
- ・社会福祉士
- ・看護師

令和6年度 合同防災訓練

<訓練内容>

- ・起震車体験
- ・煙体験
- ・水消火器
- ・防災用品体験



令和3年度より開催

<参加事業所>

- ・鷹子町内会
- ・久米地区自主防災組織連合会
- ・社会福祉法人 砥部寿会
- ・社会福祉法人 紡ぎの里
- ・包括支援センター
- ・近隣の医療機関
- ・近隣の介護事業所
- ・医療法人 聖光会

他

表彰状

鷹の子病院 たかご館 殿

あなたがたは、大災害予防の重要性を深く認識し、自衛防火の啓発に最善の努力を払い、災害のないまちづくり実現のために貢献された功績は誠に顕著であり、ますよってこれを表彰します

令和六年十月九日

松山市長 野志 克仁

～本日の内容～

- 1、法人概要
- 2、各部門の現場における問題点、課題認識**
- 3、ICT、介護ロボット導入の動機、意思決定
- 4、令和2年度～6年度 ICT・介護ロボットの導入経過
- 5、各部門の効果測定 Before－Afterのアンケート
- 6、各部門の現場の声 導入してよかったこと＆今後の課題
- 7、現在の取り組み
- 8、今後の展開

ICT機器導入前の問題点 ～老人保健施設～

- 介護方法にばらつきがある
「うちの階（フロア）はね・・・」→「うちの施設はね・・・」ではない
- 各フロアの介護方法等が異なっている為、異動が定着しない
- 介護記録に時間を要し休憩時間が取れない
- 夜勤中の実施記録を記入する余裕がない
- 多職種が紙カルテに記載の場合、時間を要し記入後も他部署へもっていき手間がある
- 各利用者のカルテに食事量、排泄回数、入浴、体温の転記
- カルテを他の職員が見ている場合、ほかの職員は情報収集できない
- 令和3年度介護報酬改定 VISITS CHASE → LIFE

ICT機器導入前の問題点 ～通所リハビリテーション～

- 2事業所ある通所リハビリテーション（鷹の子病院、たかのご館）のサービス提供にばらつきがある。
- 2事業所の記録システムが異なっており、異動の弊害
- 転記時間が多く、時間外業務が必須。
- 2事業所の帳票類が異なっており、統一ができていない。
- 介護スキル、介護記録の標準化ができていない

ICT機器導入前の問題点 ～訪問看護ステーション～

- 訪問件数が多く、事務所に帰社することができず休憩時間の確保が難しい。
(職員11名 800件/月)
- 介護ソフトの入っているパソコンが3台しかなく、パソコン入力するために順番待ちが必要
- 新型コロナウイルス発生時期で、三密を避けるため、直行直帰の勤務形態が必要
- 他のスタッフが何処に訪問しているかわかりにくく、事務所に確認の連絡が必要
- オンライン研修の機会が多くなったが、ICT環境が整備されてなかった。
- 担当者会議がZOOMで開催されることが多く、公用携帯を使用していたが画面が小さく不便。

ICT機器導入前の問題点 ～居宅介護支援事業所～

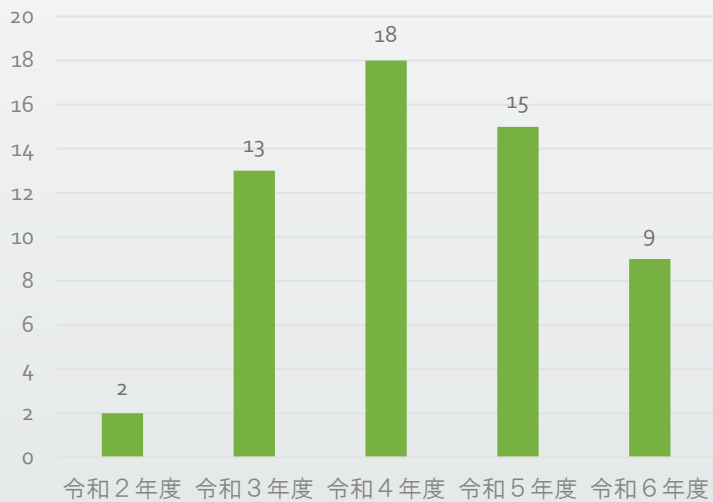
- 新型コロナウイルス感染症 流行時、在宅勤務の必要性
- 利用者宅でプラン変更の際、帰社しないと変更できない
- 持ち運びのできるプリンターがなく時間のロスがある
- 担当利用者さんの病院受診同席の際、時間の有効活用ができない
- 訪問時の記録を転記しなければならない
- 令和3年度介護報酬改定 逡減性導入

介護ロボット（見守り機器）導入前の問題点

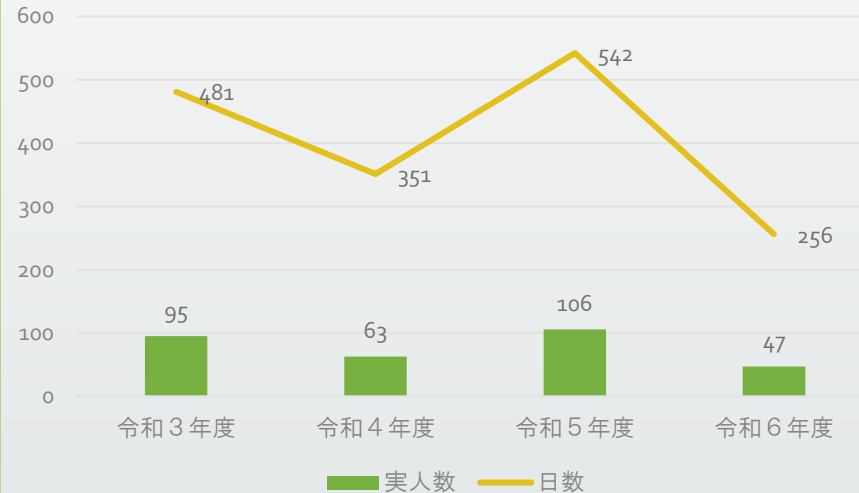
- 看取り件数の増加
- 所定疾患で治療する入所者対応の増加
- 夜勤帯の転倒事故が増加傾向（認知症専門棟）
- センサーマットの使用率の高止まり（13/24床）
- 職員が心身ともに疲弊
⇒「何とかして欲しい」（現場の声）

介護ロボットに関するデータ

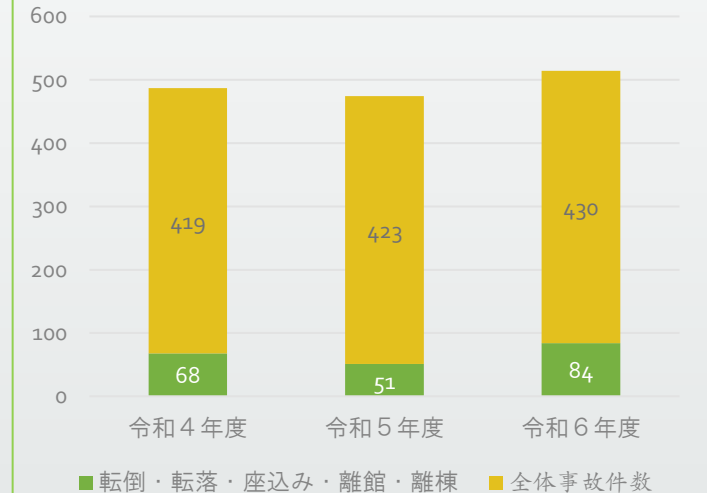
たかのご館 看取り件数



たかのご館 所定疾患



たかのご館 転倒事故件数



※令和6年度 看取り件数、所定疾患は4月～12月時点でのデータ

※事故件数は1月～12月のデータ

～本日の内容～

- 1、法人概要
- 2、各部門の現場における問題点、課題認識
- 3、ICT、介護ロボット導入の動機、意思決定**
- 4、令和2年度～6年度 ICT・介護ロボットの導入経過
- 5、各部門の効果測定 Before－Afterのアンケート
- 6、各部門の現場の声 導入してよかったこと＆今後の課題
- 7、現在の取り組み
- 8、今後の展開

介護部門 運営委員会

老人保健施設 たかのこ館	たかのこ館 通所リハビリテーション	訪問看護ステーション たかのこ館	指定居宅介護支援事業所 鷹の子病院・たかのこ館	鷹の子病院 通所リハビリテーション
-----------------	----------------------	---------------------	----------------------------	----------------------

◎目指していること◎
安全な環境で
安心して働ける
 職場作り

- ➡ **介護部門運営委員会**
(意思決定の会議)
- ➡ ハラスメント委員会
- ➡ BCP委員会
- ➡ 事故防止委員会
- ➡ 高齢者虐待防止委員会
- ➡ 身体拘束廃止委員会
- ➡ 感染対策委員会
- ➡ 生産性向上委員会

導入までの流れ

- ①ICTリーダーを任命
- ②導入スケジュールの共有
- ③ベンダーとの打ち合わせ
- ④ベンダーから使用方法を学ぶ
- ⑤リーダーが職員へ伝達
- ⑥試用期間 不明点・課題の抽出
- ⑦ベンダーに質問、改善を繰り返す
- ⑧本番移行

～本日の内容～

- 1、法人概要
- 2、各部門の現場における問題点、課題認識
- 3、ICT、介護ロボット導入の動機、意思決定
- 4、令和2年度～6年度 ICT・介護ロボットの導入経過**
- 5、各部門の効果測定 Before－Afterのアンケート
- 6、各部門の現場の声 導入してよかったこと＆今後の課題
- 7、現在の取り組み
- 8、今後の展開

ICT機器導入

<令和2年度>

- ・老人保健施設 たかのか館 タブレット10台 Wi-Fi工事

愛媛県ICT機器導入促進事業費補助金交付申請・採択

- ・鷹の子病院 通所リハビリテーション タブレット2台 パソコン1台 購入 自費導入
- ・訪問看護ステーションたかのか館 訪問看護特化型システム導入 10台 自費導入

<令和3年度>

- ・居宅介護支援事業所 鷹の子病院・たかのか館 iPad(介護ソフト)導入 1台 自費導入
- ・老人保健施設 たかのか館 追加購入 タブレット5台 パソコン4台 自費導入

ICT機器導入

<令和4年度>

- ・居宅介護支援事業所 鷹の子病院・たかのか館 タブレットPC 5台
愛媛県ICT機器導入促進事業費補助金交付申請・採択

介護ロボット導入

<令和4年度>

- ・老人保健施設 たかのか館
見守り介護ロボット:眠りスキャン15台 eyeカメラ 6台 モバイル端末 5台
愛媛県介護ロボット導入補助金交付申請・採択

<令和6年度>

- ・老人保健施設 たかのか館 見守り支援ベッドシステム エスパシア 15台 自費導入

ケアプランデータ連携システム

<令和6年度>

- ・居宅介護支援事業所 鷹の子病院・たかのこ館
- ・鷹の子病院 通所リハビリテーション

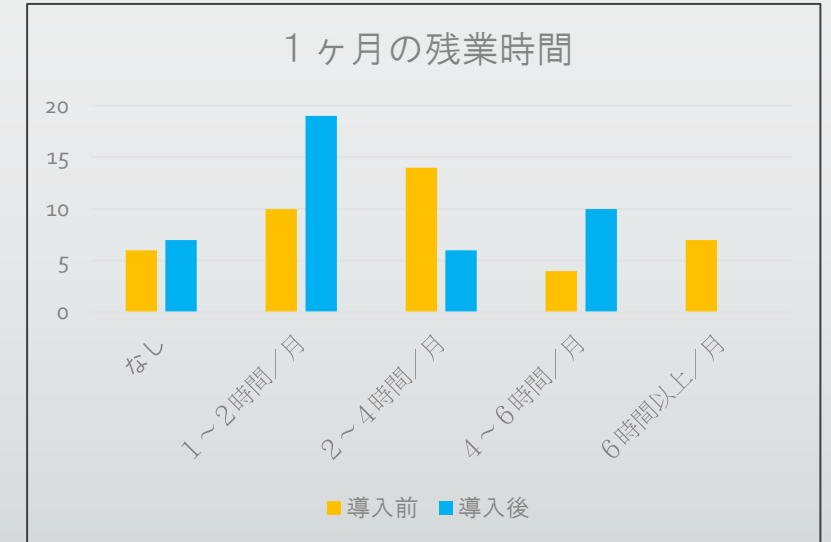
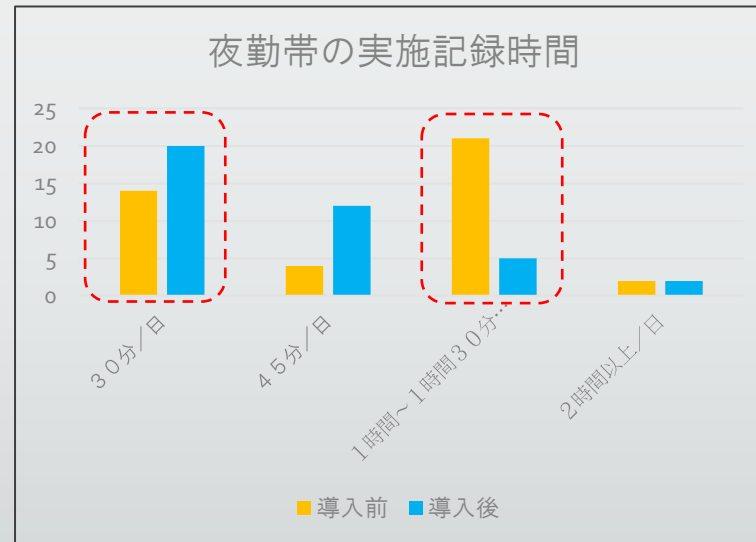
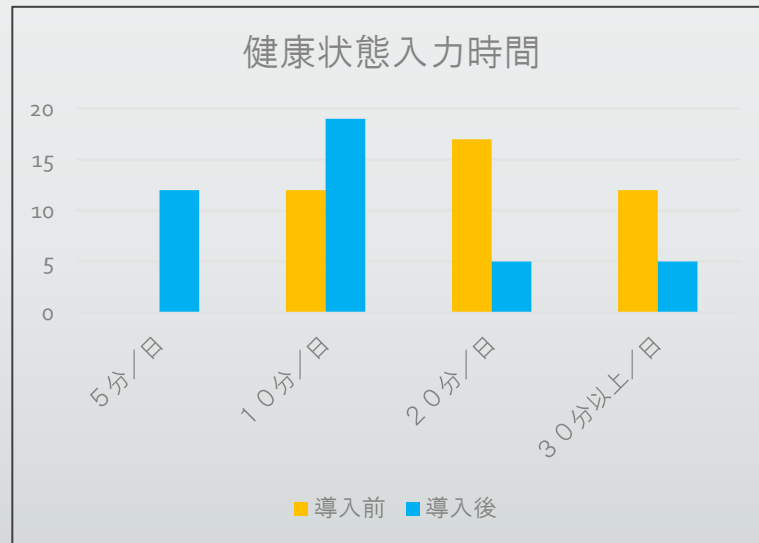
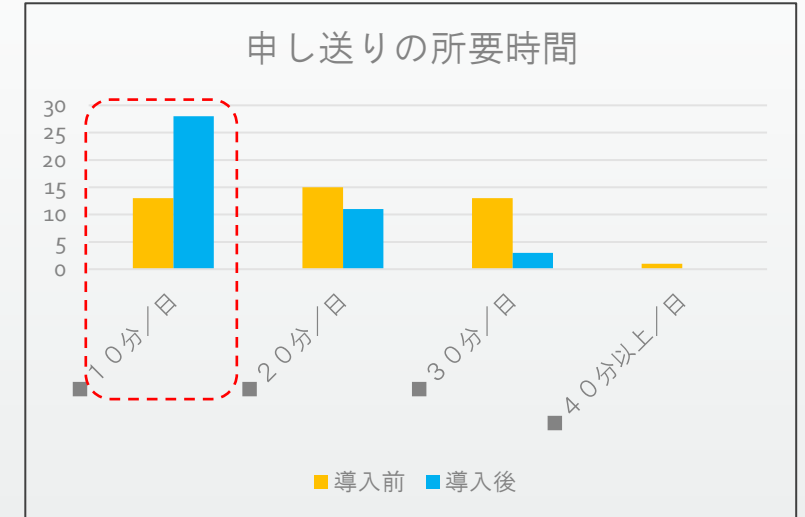
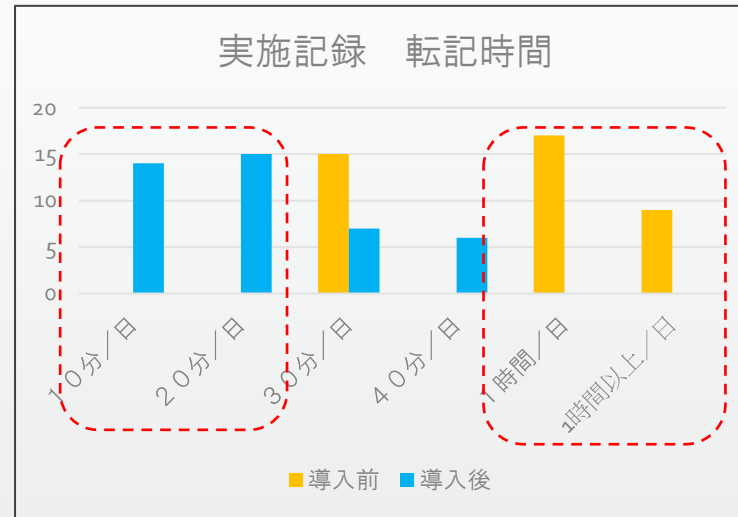
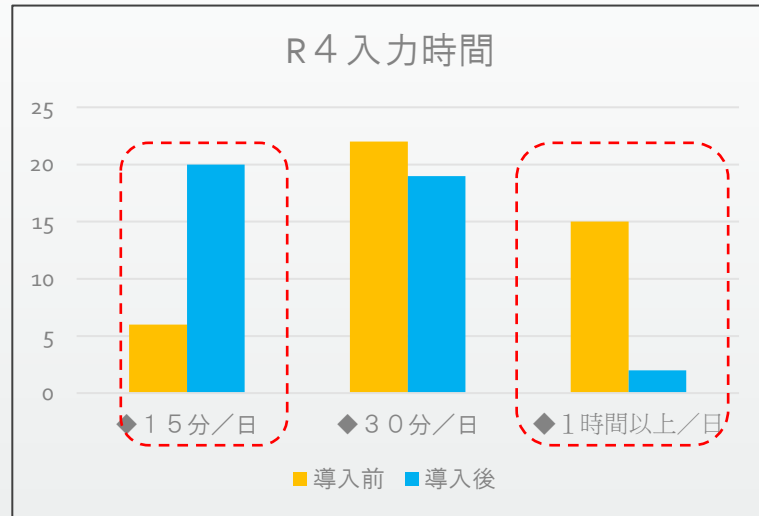
自費導入



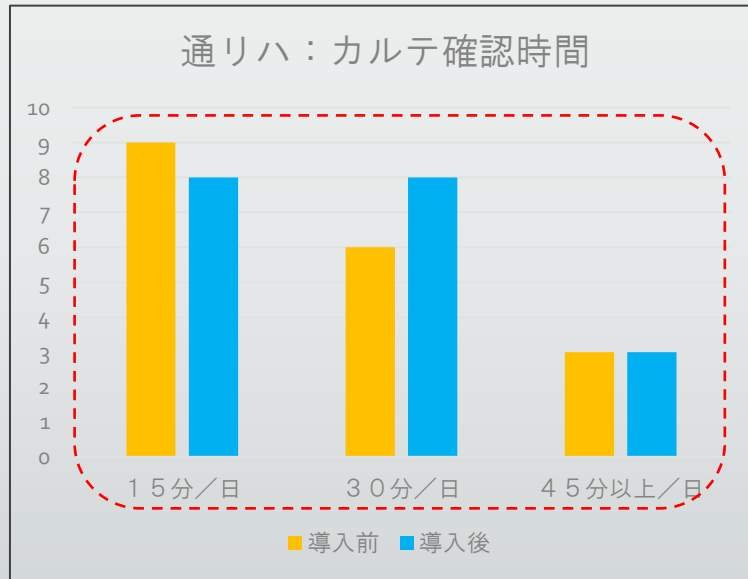
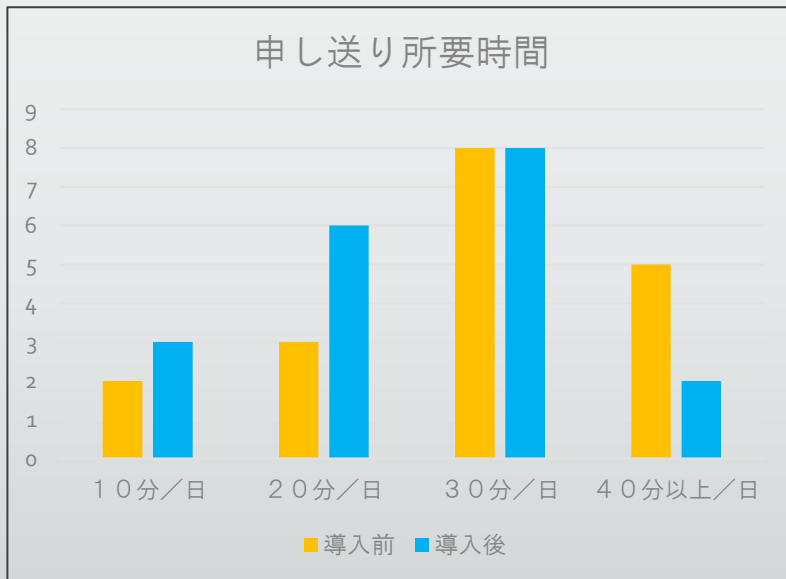
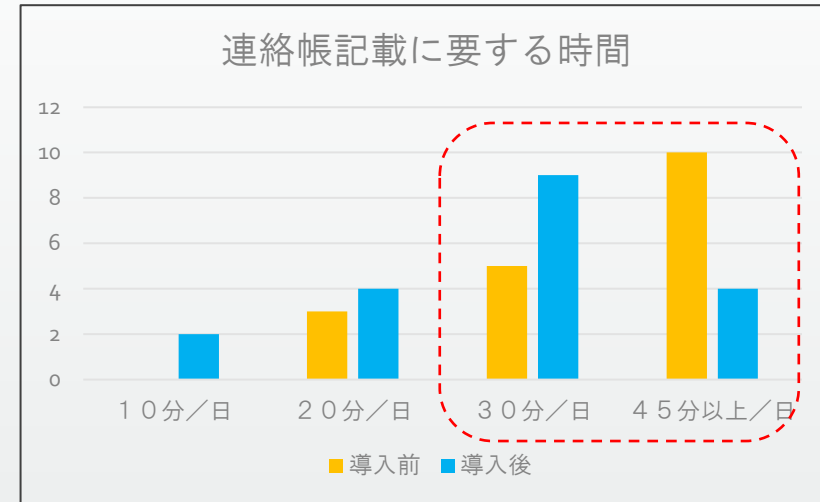
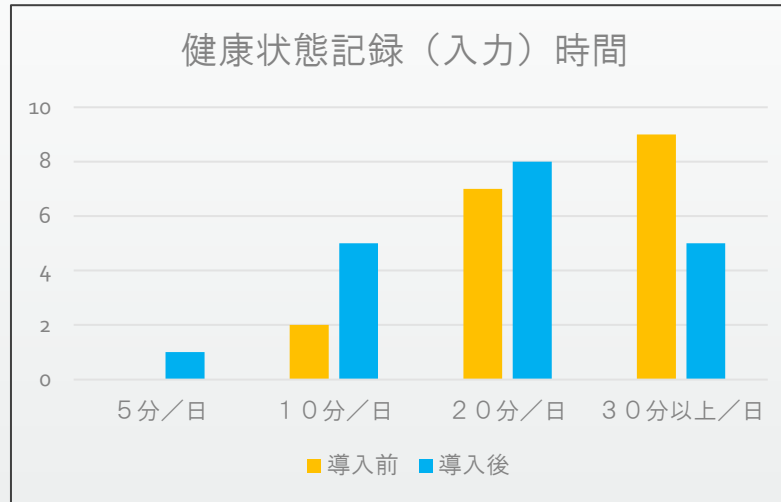
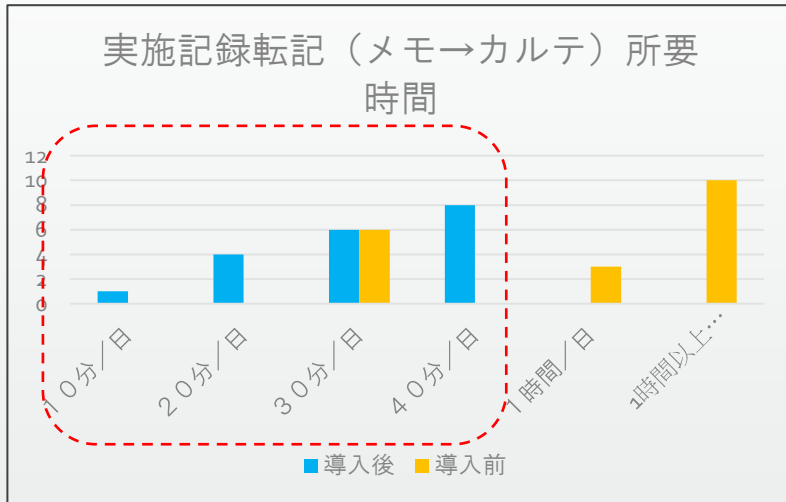
～本日の内容～

- 1、法人概要
- 2、各部門の現場における問題点、課題認識
- 3、ICT、介護ロボット導入の動機、意思決定
- 4、令和2年度～6年度 ICT・介護ロボットの導入経過
- 5、各部門の効果測定 Before－Afterのアンケート**
- 6、各部門の現場の声 導入してよかったこと＆今後の課題
- 7、現在の取り組み
- 8、今後の展開

ICT機器導入に関するアンケート ～老人保健施設～

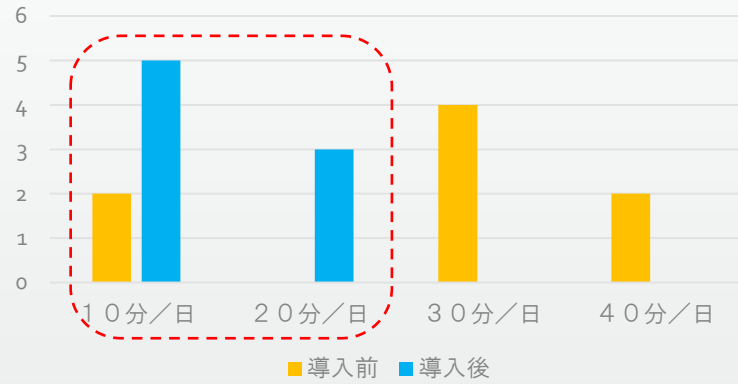


ICT機器導入に関するアンケート ～通所リハビリテーション～

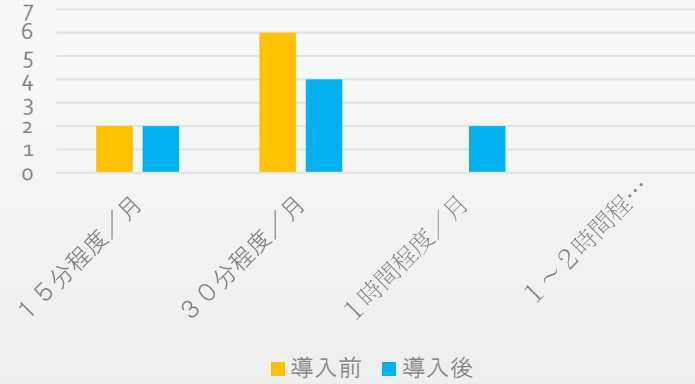


ICT機器導入に関するアンケート ～訪問看護ステーション～

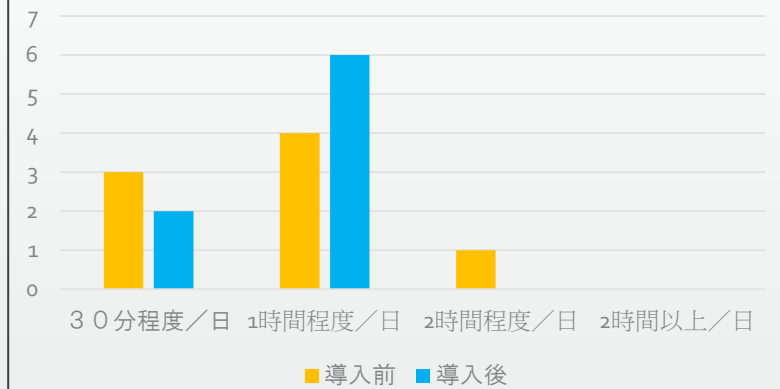
朝の申し送り時間



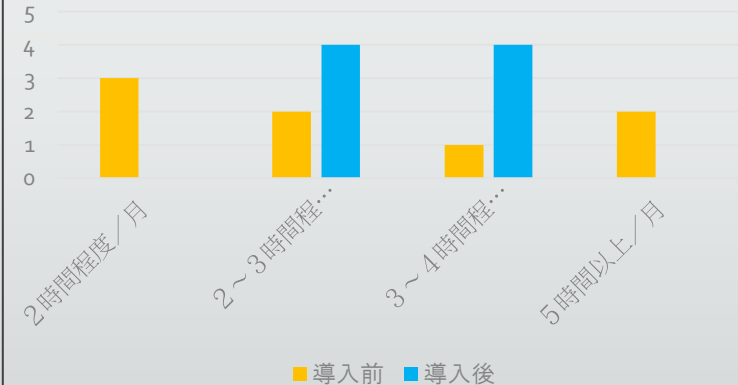
カンファレンス記録入力時間



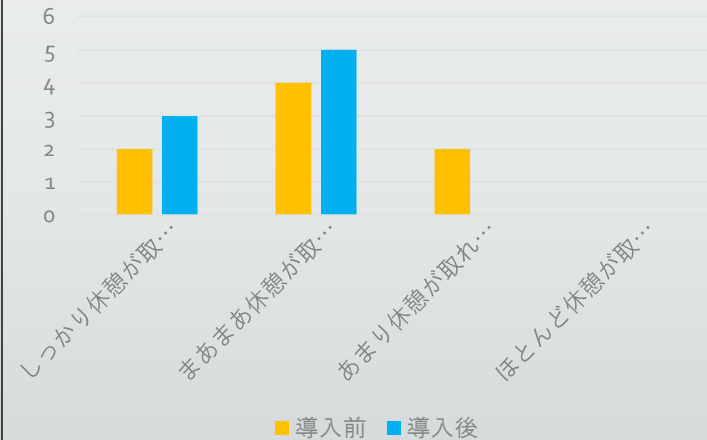
帰社後、カルテ記録に要する時間



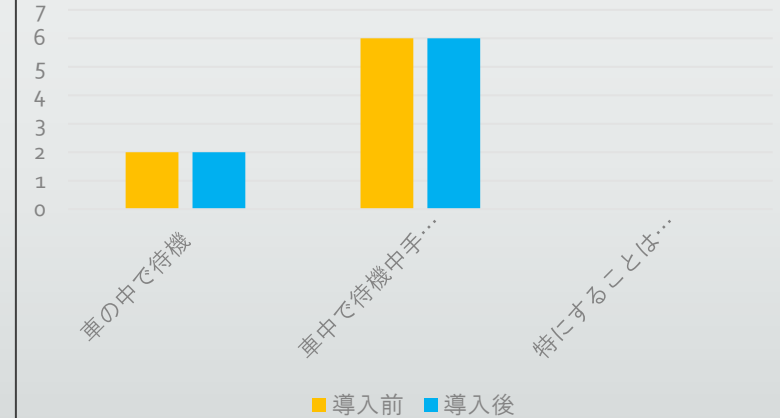
計画書、報告書、サマリー記入
(入力)に要する時間



休憩時間の取り方

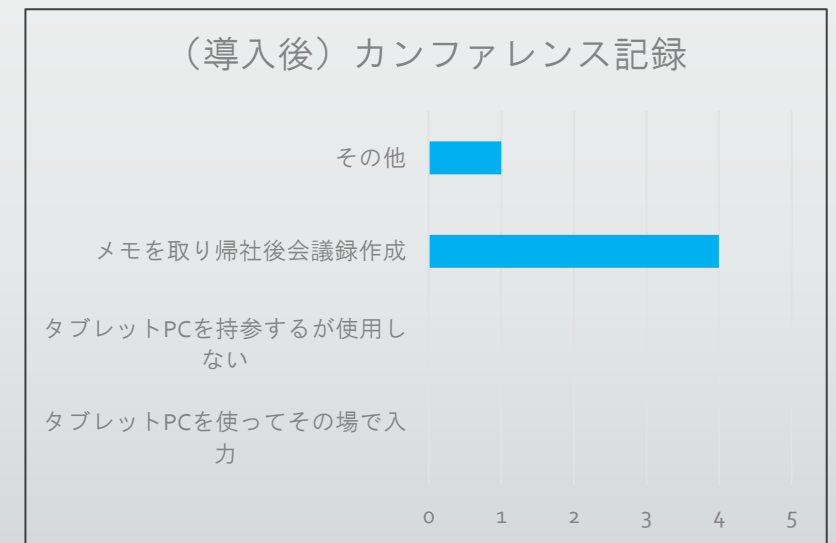
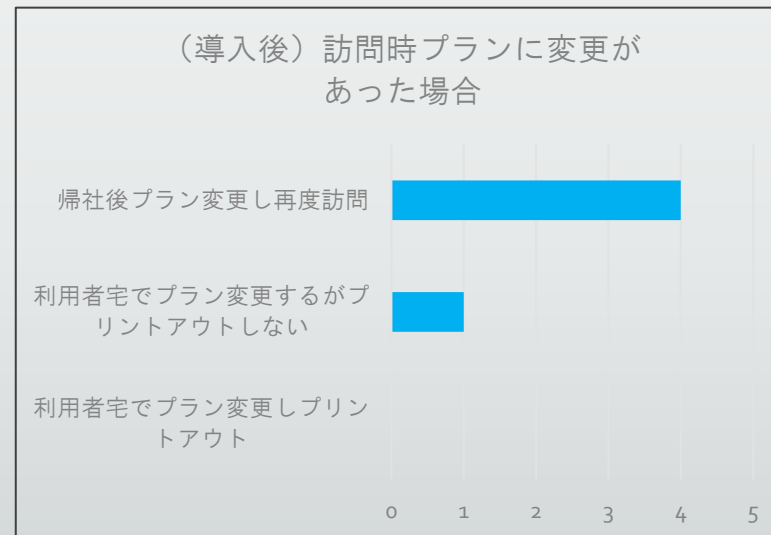
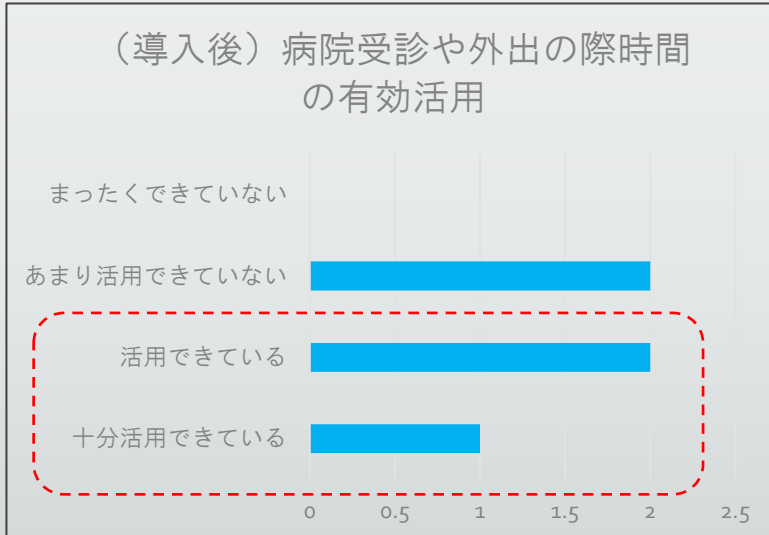
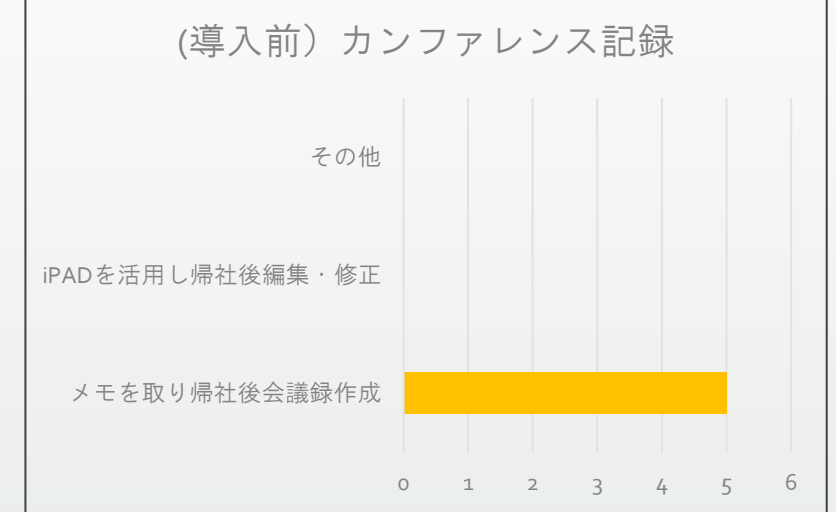
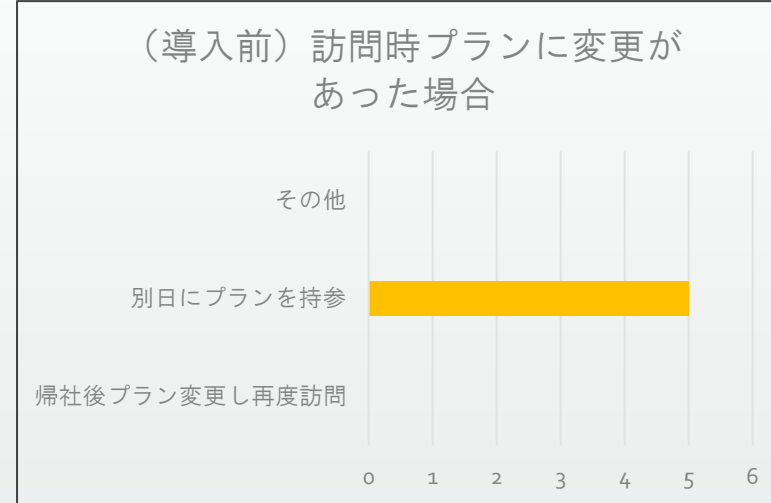
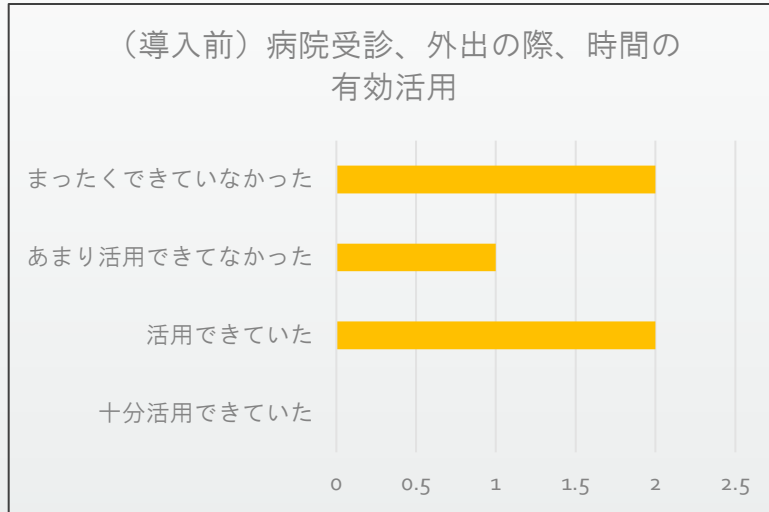


訪問の空き時間の使い方



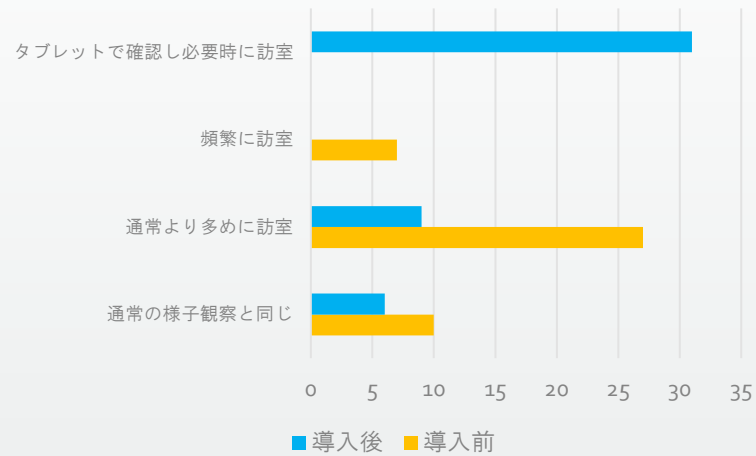
ICT機器導入に関するアンケート

～居宅介護支援事業所～

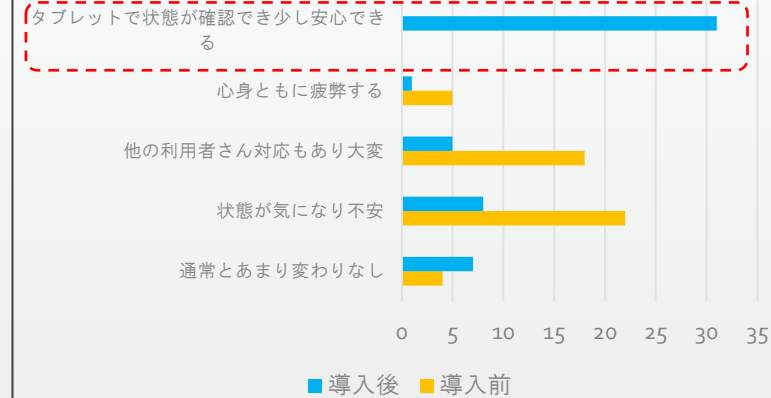


介護ロボット導入についてのアンケート

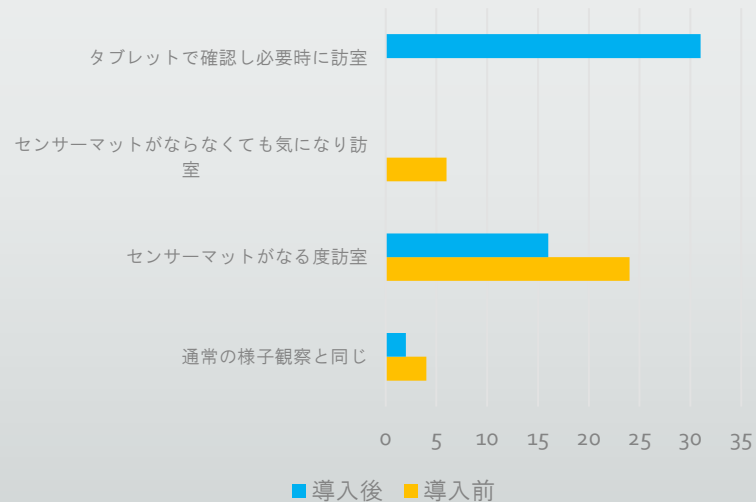
体調が悪い方への対応



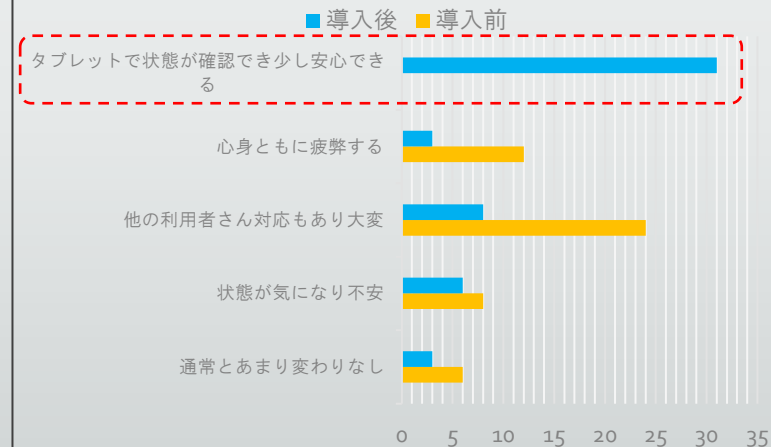
看取り期対応時の職員の心身状態



転倒リスクの高い方への対応



転倒リスクのある利用者対応時の職員の心身状態



見守り支援ベッドシステム 試行中

<感想>

- 起き上がりセンサーは感度が高いので危険度の高い利用者の使用に適している
 - 通知音が、センサー音とナースコール音と異なるので判別できるようになった
 - センサーの電源の入れ忘れを確認する必要がなくなった
 - ベッドのブレーキが一括なので移動時は使い勝手が良い
-
- 起き上がりセンサーは秒数を変更しても多少の動きで反応するため、その都度様子を見に行く必要がある
 - 端座位になってもセンサーが反応しないこともある
 - 端座位でのセンサーは動作が早い利用者には不向きかもしれない

ケアプランデータ連携システム 試行中

居宅介護支援事業所

- ・ケアプランデータ連携システム導入により手順取得に時間がかかり業務量が増えている
- ・介護ソフトのPCと連携システムのPCが別々でUSBでデータ移行するため業務が増えた
- ・連携先に利用票を送ったが、システムエラーにより、送り先での確認ができなかったため成果がわからなかった
- ・連携システム導入のメリットが体感できない
- ・同じ介護ソフトを利用している事業所の情報がわからない

鷹の子病院通所リハビリテーション

- ・ケアプラン（予定）と実績が異なる場合
通りハが修正した内容が反映するかどうか
- ・ケアマネの計画を取込んでみたが、元々計画されてない内容も取込まれ消去・修正のため二度手間になる
- ・年末年始等の休日について居宅・包括に連絡していても、計画に入っており、その都度、居宅・包括に連絡し修正依頼が必要
- ・連携先の事業者数が少ない。

～本日の内容～

- 1、法人概要
- 2、各部門の現場における問題点、課題認識
- 3、ICT、介護ロボット導入の動機、意思決定
- 4、令和2年度～6年度 ICT・ロボットの導入経過
- 5、各部門の効果測定 Before－Afterのアンケート
- 6、各部門の現場の声 導入してよかったこと & 今後の課題**
- 7、現在の取り組み
- 8、今後の展開

老人保健施設 ICT機器

<良かったこと>

- ・全職種でタイムリーに情報共有
- ・空き時間にすぐに記録入力ができる
- ・入力時間の短縮で他スタッフのサポートや利用者
と関われる時間ができた
- ・利用者情報（ケアプランなど）を一括して確認すること
ができる
- ・情報がどこからでも確認できる
- ・同じ内容だと複写できる。
- ・一斉に入力できる
- ・記録の追加・修正がしやすい
- ・バイタルチェックの重複が不要
- ・クラスター時の情報の集約

<課題>

- ・バックアップ中、入力が不可
- ・タブレットでは入力できる項目に限度がありパソコンのソフトと同様には入力できない
- ・タブレットに1週間分のデータしか残らない。
- ・内服薬と処方箋が連動していない
- ・タスクが増やしやすいが増えすぎた
- ・画面がフリーズして使用できないことがある
- ・バッテリーの消耗が激しい
- ・文字を書かないので漢字を忘れる
- ・タブレットの数が不足している
- ・転記が必要なものがあり検討が必要
- ・視力低下・肩こり

通所リハビリテーション

<良かったこと>

- ・記録・計画書の情報共有ができる
- ・入力必要ヶ所の明確化
- ・書類管理がしやすい
- ・全体の状況が把握できる
- ・修正が簡単にできる
- ・手書きの労力がなくなった
- ・クラスター 情報の集約

<課題>

- ・挿入時の取決めが大変だった
- ・各部署で運用方法が違うため導入前に使用方法を学べば良かった
- ・紙ベースより労力が増えている
- ・タブレットが不足している
- ・バイタル測定時、異常数値が出るため再検が必要
- ・時折、入力データが消去される
- ・送受信のタイミングを間違えると入力したデータが消えてしまう
- ・機械音痴なので不便になった
- ・入力する時間が増え残業時間が増えた

訪問看護ステーション

<良かったこと>

- ・ナビがあるため新規利用者宅へ行く際、安心
- ・写真やファイルを共有でき訪問先でも確認できる
- ・隙間時間に記録ができる
- ・日中事務所に戻れない時や緊急電話を受けた際の情報確認や問合せへの返答が正確に行える
- ・他の職員の訪問予定が確認できる
- ・同日、同じ利用者宅へ訪問の際は事前の状態確認ができる
- ・報告書の事務処理が各自ででき効率が良い
- ・BCPにおいて情報の整理ができる

<課題>

- ・指示書、ケアマネからの基本情報が手入力であるため、スキャン、読取り機能があればよい
- ・計画書、報告書のAIソフトがあるが実用的ではなく書き直しに時間を要す
- ・ストレージの容量がなくなり写真共有できないことがある
- ・記載すべき事項の記載がないと情報共有できない人的ミスがある
- ・使いこなせてない面もあり、防災情報の確認方法の練習が必要
- ・訪問予定、勤務予定は自身で入れるようにしているが更新忘れがあり確認していく必要がある

居宅介護支援事業所

<良かったこと>

- ・訪問調査時に使用して認定結果が予想できるようになった
- ・利用料金計算や支援内容など確認できるようになった
- ・訪問の空き時間に記録ができる
- ・慣れている利用者には訪問時や会議時に記録ができています
- ・訪問と訪問の空いた時間、病院受診時の空いた時間に記録を行うことができ、帰社後の負担が軽減できた
- ・在宅ワークができるようになった
- ・訪問調査時、前回の調査内容などを確認できた
- ・サービス変更の際、利用料がその場で計算、確認できるため折り返しの電話が不要になった

<課題>

- ・利用者の自宅や介護事業所が山間部の場合Wi-Fiが繋がらずパソコンが使用できない
- ・車中ではマウスが使えないため記録したものが誤って消えてしまったことがある
- ・面談時、カンファレンス時は利用者さんや家族の表情なども確認しながら話すためパソコンを使用することは難しい
- ・会議中、司会をしながら会議録を入力するのは難しい
- ・タブレットPCの活用機会を増やしたい
- ・老眼には文字が小さく見えにくい

老人保健施設 介護ロボット

<良かったこと>

- タブレットで確認できるためほかの利用者の対応中も安心できる
- 優先順位がつけやすくなった
- 夜間の転倒が減った（早期発見）
- **利用者の入眠状態が確認できるので日中の関わり方を検討することができる**
- 利用者をお待たせすることなく不安不穩の軽減につながる
- **看取りの方に対して体調変化にすぐ気が付くようになった**
- 夜間、看護師がほかのフロアにいてもタブレットで確認でき安心
- 心電図モニターのような感覚で利用できる
- 必要時の訪室になったので同室者の眠りの妨げにならなくてよい

<課 題>

- ・アラームにタイムラグがある
- ・台数に限りがあるので優先順位を決める必要がある
- ・**誤作動もあるので100%安心はできない**
- ・看取りの利用者全員に設置できない為見逃しがあるかもしれない
- ・他の利用者対応中では確認できても全ての事故は防げない
- ・センサー感度を適切に設定できなければアラーム過多になってしまう
- ・**不具合もあるので機器に頼りすぎることなく適切に自分の目で確認が必要**
- ・体動だけでアラームが鳴ることもありその都度訪室し確認をするので疲弊することもある
- ・**プライバシー（肖像権）の問題**
- ・**職員の操作ミスなどにより夜間に再設定が必要になる場面もあり、パソコンが苦手でもわかりやすいマニュアルの作成**

～本日の内容～

- 1、法人概要
- 2、各部門の現場における問題点、課題認識
- 3、ICT、介護ロボット導入の動機、意思決定
- 4、令和2年度～6年度 ICT・介護ロボットの導入経過
- 5、各部門の効果測定 Before－Afterのアンケート
- 6、各部門の現場の声 導入してよかったこと＆今後の課題
- 7、現在の取り組み**
- 8、今後の展開

現在の取組み

①帳票類の整備、BCPの取り組み強化

ベンダーと共同し、共通フォームを作成中

有事に使用 紙ベースで情報をアウトプットできるしくみ

介護ソフトのデータをクラウドで保管

②介護ソフトバージョンアップしても使いこなせない

ベンダーに必要時来てもらい指導いただき、情報共有

③外国人職員がサマリーの記入が可能となる為の取組み

チャットGPT導入を試みている。情報漏洩対策の必要性あり

④パソコン、タブレットに長けている人・そうでない人

入職時、使用方法の説明を行い、慣れてもらう。

経験を重ねるしかないが、継続した課題

⑤ICT機器、見守りロボットシステムの維持

使用状況、使用方法等を定期的に確認 各委員会で検討

稼働率の向上を目指し、日々奮闘中 ランニングコスト

⑥医療データと介護データの連携

国の方針を待ちつつ情報収集に努める

※一歩先を行く 訪問看護ステーションたかのかのこ館 使用の「i Bow」

- ・訪問看護指示書、訪問看護報告書を i Bow内で蓄積されたデータベースを掛け合わせ
生成AI(人工知能)により利用者にマッチする計画目標・問題点・解決策を自動で複数
抽出し提案してくれるシステム

電子カルテiBowで実現する業務効率化



生成AIによる計画書・報告書作成サポートで品質アップ&時短に

書類作成に必要な情報を関連書類やデータからAIが自動的に整理し書類作成の時間を大幅に削減します。



データ自動反映で転記作業不要、書類作成を効率化

必要書類や利用者情報などから自動的に各書類に反映されるため、転記作業が不要になり、書類作成が大幅に効率化されます。



利用者情報のデータ一元化で管理・情報共有が簡単に

写真、ファイル、お薬手帳や保険証、ケアプランなどをデータで一元管理しますので共有が簡単です。



統計データ出力により経営課題の抽出や対策立案がスムーズに

日々の訪問記録や実績、登録された利用者情報等から経営に役立つ統計データを出力可能です。

記録書

報告書

計画書

利用者情報

スケジュール

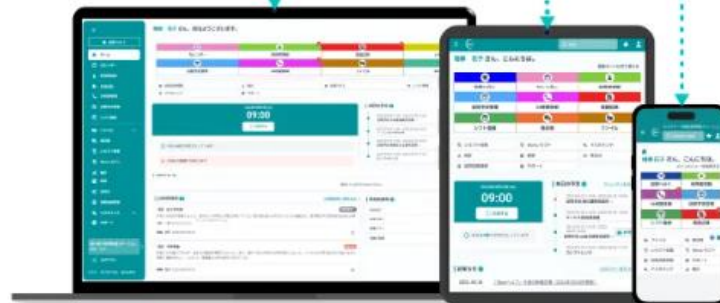
ヒヤリハット

指示書依頼書

看護サマリー

会議録

iBowなら、どのデバイスでも同じ情報取得・機能操作が可能！



いつでも・どこでも
同じ業務を行える

誰でも使える
シンプルな
操作画面

訪問看護ステーション たかのこ館

帳票・リストの作成

カンファレンスの会議録や事故ヒヤリハット報告書など訪問看護に必要な幅広い帳票をご用意しています。タブレットからもすべての帳票の作成・出力が可能です。年1回のアンケート調査に必要なデータも自動で集計し、フォーマットに転記。看護体制強化加算の算定要件を満たしているかどうか、自動的にチェックして申請に必要な算定表も自動作成します。また、指示書や保険の有効期限や加算状況など、管理に必要なデータをすぐにリスト化できます。

帳票・リストの作成

- 訪問看護記録書I
- 訪問看護記録書II
- 訪問看護計画書
- サービス内容確認書(利用者向け計画書)
- 訪問看護報告書
- 情報提供書Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(市町村等宛、保険所長等宛、学校等宛、医療機関宛)
- 褥瘡対策に関する計画書
- 事故/ヒヤリハット報告書
- 訪問看護指示書ひな形
- 送付状(報告書・計画書/指示書交付依頼)
- 服薬管理表
- 業務日報
- 会議録
- サービス提供票(別表、給付費、医療)
- 指示書・保険の有効期限リスト
- 24時間連絡記録(利用者対応記録一覧)
- 記録書Ⅱ等の書類未提出リスト
- など

iBow AI訪問看護計画/訪問看護報告

iBowデータを活用することでワンクリックで計画書・報告書が作成可能

AI訪問看護計画立案に必要な情報

- ・指示書情報
- ・看護記録書Ⅰ

AI訪問看護報告立案に必要な情報

- ・看護記録書Ⅱ

訪問看護計画/訪問看護報告立案

訪問看護計画書(4月)			
利用者氏名	姓 名	生年月日	昭和32年3月9日 (67歳)
介護認定状況	要介護2(要介護)		
住所	大阪府大阪市中央区西船場3-3-3		
看護・リハビリテーションの目標	看護・リハビリテーションの目標		
【長期目標】	・施設内の管理ができ、インシュリン注射、服薬、食事療法、適度な運動を行うことができる ・身体機能を維持することができる ・日常生活において自立し、自尊心を保ちながら生活できる		
【短期目標】	・血糖値とHbA1cの値を正常に維持する ・定期的な身体測定を継続し、皮膚トラブルを防ぐ ・認知機能の維持と悪化の予防		
No.	項目	看護計画	評価
01	認知機能の維持と悪化の予防	・血糖測定(1回/月未満) ・インシュリン注射 ・食事の時間、食事内容、摂取量、食後の状況の記録 ・血糖値とHbA1cの値を正常に維持する ・定期的な身体測定を継続し、皮膚トラブルを防ぐ ・認知機能の維持と悪化の予防	
02	セルフケアの導入、実施	・血糖測定による血糖値の記録 ・インシュリン注射の記録 ・食事の時間と食事内容の記録 ・血糖値とHbA1cの値を正常に維持する ・定期的な身体測定を継続し、皮膚トラブルを防ぐ ・認知機能の維持と悪化の予防	
03	認知機能の維持	・血糖測定による血糖値の記録 ・インシュリン注射の記録 ・食事の時間と食事内容の記録 ・血糖値とHbA1cの値を正常に維持する ・定期的な身体測定を継続し、皮膚トラブルを防ぐ ・認知機能の維持と悪化の予防	

訪問看護報告書(9月)			
利用者氏名	姓 名	生年月日	昭和32年3月9日 (67歳)
住所	大阪府大阪市中央区西船場3-3-3		
訪問日	令和6年9月		
バイタル	体温(36.1~36.3℃) 呼吸(20~22回/分) 脈拍(60~65回/分) 血圧(134/73mmHg) 血糖値(134~139mg/dl) HbA1c(6.5%)		
病状の経過	ご利用者は、全体的にバイタルサインが安定しており、体調の変動が少しありましたが、生活自立度は高い状態を維持しています。食事摂取量はばらつきがあり、特に月中旬には食欲減退が見られましたが、月末には回復しました。睡眠は一貫して良好で、排便管理も食事の量により問題ありませんでした。血糖値とHbA1cは基本的には正常範囲内ですが、血糖値は下段に示されましたが、重大な問題には至っていません。心身の安定では、時々不安定な状態があり、家族のサポートが重要な役割を果たしています。全体的に、ご利用者は安定した状態を維持しており、家族のサポートが重要な役割を果たしています。ご利用者の病状は安定しており、家族のサポートが重要な役割を果たしています。ご利用者の病状は安定しており、家族のサポートが重要な役割を果たしています。		
看護・リハビリテーションの内容	血糖値の測定、インシュリン注射、服薬管理、食事療法の実施、血糖値の記録、血糖値とHbA1cの値を正常に維持する、定期的な身体測定を継続し、皮膚トラブルを防ぐ、認知機能の維持と悪化の予防		

リハビリの報告書
別添にも対応

～本日の内容～

- 1、法人概要
- 2、各部門の現場における問題点、課題認識
- 3、ICT、介護ロボット導入の動機、意思決定
- 4、令和2年度～6年度 ICT・介護ロボットの導入経過
- 5、各部門の効果測定 Before－Afterのアンケート
- 6、各部門の現場の声 導入してよかったこと＆今後の課題
- 7、現在の取り組み
- 8、今後の展開

今後の展開

- ・行政と介護サービス事業所が、必要な情報を共有し、活用しやすいシステム作り
- ・人材育成の仕組み作り ～デジタル中核人材養成研修の活用～
- ・介護ロボットシステムと介護ソフトのデータ連携
- ・AI、チャットGPTの活用
- ・外国人介護職員採用とICTの取組みの充実
- ・インカム導入と介護記録
- ・ランニングコストの確保 ～願わくば・・・～
- ・介護サービスの本質を忘れない ～介護報酬ありき、ではない!～

今後の展開 ～ケアプランデータ連携システム～

- ・同じベンダー同士では請求業務に支障なし
- ・連携システム導入事業所が増えることで、ケアマネ、サービス事業所の業務の軽減が予測される
(封書・メール・FAXでの実績合せ → ケアプランデータ連携システム)
- ・異なるベンダー間で、連携システムがどのように稼動するかを確認
(他事業所が使用しているベンダーを知る)

ノーリフティングケア

◎目指していること◎
安全な環境で
安心して働ける
職場作り

～令和5年度からの取り組み～

- ノーリフティングケア宣言のポスター掲示
- ノーリフティングケア委員が、身体の使い方、スライディングシートの使い方、背上げと圧抜きの方法をマスターし、各フロアの職員に指導
- 現在所有している福祉用具の保管場所と活用するための適切な配置の一覧表作成
- 不足している福祉用具の購入

老人保健施設 たかのご館

ノーリフティングケア宣言！

私たちは、介護する側・される側 双方が安全で安心な
持ち上げない！抱え上げない！引きずらない！
ノーリフティングケアを行います



職場における腰痛予防対策指針(平成25年6月厚生労働省)

事業所は、労働者の健康を確保する責務を有しており、トップとして腰痛予防対策に取り組む方針を表明した上で、安全衛生担当者の役割、責任及び権限を明確にしつつ、各事業場の実態に即した対策を講ずる必要がある。
移乗介助、入浴介助及び排泄介助における対象者の抱え上げは、労働者の腰部に著しく負担がかかることから、原則として人力による抱え上げは行わないこと。



ICT機器・介護ロボット導入は、 職場環境をよくするための ひとつのツール

- ・導入がゴールではない
- ・事業所内で導入後のPDCAサイクルを大切に

介護事業者間で情報共有の機会を！

ご清聴ありがとうございました。



医療法人聖光会 鷹の子病院・たかのか館